

⑤		④		③		②		①		④		①			
作品名	人物名	作品名	人物名	作品名	人物名	作品名	人物名	作品名	人物名	作品名	人物名	作品名	人物名		
風信帖	空海	伊都内親王願文	橘逸勢	李嶠詩(李嶠詩残卷・李嶠雜詠)	嵯峨天皇	雁塔聖教序	褚遂良	九成宮醴泉銘	歐陽詢	孔子廟堂碑	虞世南	淳化閣帖	せんそうぼん		
作品説明		作品説明		作品説明		作品説明		作品説明		作品説明		作品説明			
空海が最澄に宛てた書状三通を継いで一巻としたもので、冒頭に「風信雲書」とあることから、後世このように呼ばれている。その書は、筆力に満ちた変化に富む書風であり、王羲之や顔真卿の影響がみられる。		桓武天皇の第八皇女伊都内親王が、母の遺言で田畑などを寺に寄進した際の願文です。天長十年に橘逸勢が筆写したといわれています。字形は縦長で伸びやかな線で書かれています。		唐の詩人李嶠の五言律詩を書写したものです。筆者は嵯峨天皇とされていますが、中国から伝来したものとも推定されています。その筆致は欧陽詢の影響を強く受けており、当時の書風を知る貴重な資料です。		玄奘三蔵法師がインドより仏典を持ち帰り、それを漢訳した功績をたたえて建てられた碑である。筆の弾力を生かした軽快で抑揚のある清らかな細い線が特徴で、独特の境地を示した。		唐の太宗皇帝が離宮である九成宮に避暑に訪れた際、偶然にもおいしい水が湧き出る場所を見つけたことを記念して建てられた碑である。引き締まった背勢の構えと厳正な用筆で品格が高く、古来「楷書の極則」と評されている。		唐の太宗皇帝が孔子の霊を祀る廟を再建した際の記念碑である。伸びやかな横画と右払いが特徴で、力を内に含んだ強い線質、温雅な趣と気品の高さにより、古来高く評価されている。		唐の太宗皇帝が孔子の霊を祀る廟を再建した際の記念碑である。伸びやかな横画と右払いが特徴で、力を内に含んだ強い線質、温雅な趣と気品の高さにより、古来高く評価されている。		起筆が蚕の頭のように丸く、右払いが燕の尾のような形をしている顔真卿の楷書の特徴的な筆法を形容した語。	
古典を十分習った後で古典を見ずに書く臨書方法のこと。		起筆が蚕の頭のように丸く、右払いが燕の尾のような形をしている顔真卿の楷書の特徴的な筆法を形容した語。		印材の側面に刻される落款や跋文のこと。		筆跡の輪郭を写し取り、その中を塗り込めることによる複製制作の方法をいう。		穂先が筆画の中心を通るように運筆すること。		寄合書		こうしゅうかんじしかん			
										端溪硯		ぬきなすうおう			

各1点×12
各4点×6
三
36点

各3点×5
二
15点

各1点×6
一
6点

受験番号	得点 その一	57点
------	-----------	-----

おぼろの つきのひかりの さむければ かげみしみづぞ まづこほりける

①	参
②	所
③	旧
④	壁
⑤	従
⑥	無
⑦	也
⑧	調

あらゆる事が昔に比べて劣って浅くなってゆく末世であるけれど、仮名だけは、今の世に際限なく発達したものです。

昔の字は一定の書法があるようだけれど、ゆったりとした感じがあまりなくて、どれも似通った書法です。

出典	源氏物語
筆者名	紫式部

①	心情
②	感性
③	諸能力
④	情操

古筆の特徴

① 線質は明快で、緩急、強弱を利かせた連綿が見られ、一紙の中でこの行の構成に変化を持たせた散らし書きが展開されている。

② 漢字、カタカナ、変体仮名を巧みに取り入れ、線に麗しい厚みがあり、流動的で、強くも優しくも変化する用筆が特徴である。

③ 落ち着いた運筆で格調が高く、一字一字の造形が端正でしっかりしており、極めて自然な墨継ぎによって一行の流れも無理なくすっきり調和している。

学習法

まず、各班四人グループにさせた後、各班に①②③のいずれかの作品を指定し、古筆の表現に関して特徴を話し合わせる。次に別の四人グループを混成させ（①②③が混ざり合うように）、各作品に対して意見交換をする。各班で話し合われた内容を発表して、クラス全員で共通理解していく。最後に教師によりまとめを行う。

各1点×8
五
8点

8点
各1点×2
六
10点

各1点×4
七
4点

各2点×3
八
7点
13点

受験番号	得点 その二	43点	得点計	100点
------	-----------	-----	-----	------